

日本医真菌学会
名誉会員

岩田 和夫 先生

(1919-2005)



訃 報

本学会名誉会員 岩田 和夫 先生は、
平成17年8月12日に逝去されました。
謹んで弔意を表します。

日本医真菌学会

理事長 小 川 秀 興

岩田和夫先生の御逝去を悼んで

日本医真菌学会名誉会員

山口 英 世

本学会名誉会員岩田和夫先生は、闘病中のところ去る8月12日逝去されました。長い間先生のご薫陶を頂いた私共後進にとって痛恨の極みであり、謹んで哀悼の意を捧げます。

岩田先生は、昭和19年9月に東京帝国大学医学部医学科を卒業すると直ちに陸軍軍医として応召されたのですが、終戦復員後の昭和21年から昭和55年の定年ご退職までの34年間、一貫して東大医学部細菌学教室に在籍されました。とりわけ後半の17年間は主任教授として学内における研究・教育活動はいうに及ばず、附属動物実験施設を設立してその初代施設長に就任するなど東大医学部の発展にも大きく貢献されました。

先生がなされた研究は多岐にわたりますが、最も精力を注がれたのはいうまでもなく医真菌学領域のそれです。種々の病原真菌の細胞生物学（とくに細胞オルガネラの超微構造と機能）、病原因子としての真菌毒素、真菌症の病因論と免疫学、抗真菌薬の作用メカニズム、*in vitro*抗真菌試験および動物感染モデルでの*in vivo*試験に基づく非臨床評価をはじめとする抗真菌化学療法の研究など医真菌学の主要な研究分野において、多くの優れた成果をあげられました。なかでも *Candida albicans*, *Aspergillus fumigatus* といった代表的な病原真菌が産生する高分子毒素の発見とそれらの毒素の病原的役割の解析は、きわめて独創的かつ先駆的な研究として国内外で高い評価を受け、第20回野口英世記念医学賞（昭和51年）授賞の榮に浴されました。

こうした岩田先生の研究活動にもまして特筆しなければならぬご功績は、本学会に足場を置いて国内外で幅広く展開された学会活動にあります。先生は、昭和31年から翌年にかけて、医真菌学分野では世界の第一人者といわれた米国 Duke 大学の N.F. Conant 教授のもとへ留学され、当時としては最先端の方法論と実験手技を学んで来られ、これがその後の先生の優れたご研究につながったものと思われます。しかし先生が留学中に学ばれたのはそれだけではなく、欧米における医真菌学の急速な発展ぶりを目の当りにして、心に期するところがあつたに違いありません。

先生は帰国後直ちに、その年（昭和32年）に創立された日本医真菌学会に幹事として参加されたのを皮切りに、評議員、幹事委員を経て昭和42年に理事となられました。昭和49年から昭和57年まで9年間もの長期にわたって理事長をつとめられ、評議員・理事選挙の実施、学会賞の制定、学会事務の外部委託など、現在に至る学会運営の基盤をつくられました。先生は理事長在任中の学会賞受賞を固辞されていたのですが、その任を終えた翌年の昭和58年に先生のライフワークともいえるべき

「高分子真菌毒素とその病因的意義」と題する研究業績に対して学会賞が授与されました。

先生の学会活動は、本学会をはじめとする国内のそれにとどまらず、医真菌学関連の主要な国際学会にまで活躍の場を広げられました。本学会と最も関係の深い ISHAM (International Society for Human and Animal Mycology) に関しては、Vice-president への就任直後の昭和50年6月29日～7月4日に東京において開催された第6回 ISHAM 会議（第6回国際医真菌学会議）の会長をつとめられたことが最大のご功績としてあげられます。この会議には、当時の ISHAM President であった Dr. L. Ajello をはじ、Dr. J.C. Gentles, Dr. H.P.R. Seeliger, Dr. R. Vanbreuseghem, Dr. D.W.R. Mackenzie, Dr. E.S. Beneke, Dr. F. Mariat, Dr. J. Müller など錚々たる学者を含め34ヶ国から約400名が参加し、盛大に行われました。まさしくわが国の医真菌学界にとって記念すべき出来事であり、この会議を契機に本学会は国際化に向けた大きな一歩を踏み出すことになりました。

さらに先生は、The 2nd International Specialized Symposium on Yeasts の東京での開催（昭和47年8月）、国際微生物学会連合 (International Association of Microbiological Societies) の Mycology Section の Vice-chairman 次いで Chairman への就任など、世界的な視野に立って医真菌学の進歩と発展に尽力されました。こうした国内外にわたる幅広い学会活動は、先生が医真菌学者として国際的に高く評価されていたことに加えて、卓越した指導力と実行力を兼ね備えておられたことによってはじめて為しえたものと、深い敬意を覚える次第です。

このように先生はわが国を代表する医真菌学者として、斯界の発表と国際化のために多大な貢献をなされました。とくに本学会にとっては、今日の隆盛をもたらした最大の功労者といっても過言ではありません。

先生は東大定年ご退職に引き続いて明治薬科大学微生物学教室教授をつとめられた後に、現役を退かれました。しかし平成6年には「真菌・真菌症・化学療法抗真菌剤を中心として」と題する大著を出版されるなど執筆活動は晩年に至るまでいささかも衰えることはありませんでした。ご遺族のお話では、入院中も病魔に苦しみながら医学雑誌を読んでおられたとのこと、文字通り医真菌学者としての生涯を完うされました。

わが国の医真菌学ならびに本学会の歴史に大きな足跡を残された先生の御偉業を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

~~~~~

故 岩田和夫先生の略歴

|                          |                                                                                                         |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大正 8 年10月26日             | 出生                                                                                                      |
| 昭和19年 9 月                | 東京帝国大学医学部医学科卒業                                                                                          |
| 昭和24年 6 月                | 東京大学医学部細菌学教室助手                                                                                          |
| 昭和31年 1 月                | 同助教授                                                                                                    |
| 昭和31年 7 月                | Visiting Associate Professor として米国 Duke 大学<br>医学部へ出張 (昭和32年10月まで)                                       |
| 昭和35年10月                 | 日本医真菌学会評議員, 幹事委員                                                                                        |
| 昭和38年 4 月                | 東京大学医学部細菌学教室教授                                                                                          |
| 昭和41年10月18, 19日          | 第10回日本医真菌学会総会 (東京) 会長                                                                                   |
| 昭和42年10月                 | 日本医真菌学会理事                                                                                               |
| 昭和45年                    | Vice-chairman, The Mycology Section of IAMS (International<br>Association of Microbiological Societies) |
| 昭和47年 8 月 7 ~10日         | President, the 2nd International Specialized Symposium on Yeasts<br>(東京)                                |
| 昭和49年10月                 | 日本医真菌学会理事長 (昭和57年 9 月まで)                                                                                |
| 昭和50年                    | Vice-president, ISHAM (International Society for Human and<br>Animal Mycology)                          |
| 昭和50年 6 月29日~<br>7 月 4 日 | President, the 6th Congress of ISHAM (東京)                                                               |
| 昭和51年11月                 | 第20回野口英世記念医学賞受賞                                                                                         |
| 昭和53年                    | Chairman, The Mycology Section of IAMS                                                                  |
| 昭和55年 4 月                | 東京大学教授定年退職<br>明治薬科大学微生物学教室教授                                                                            |
| 昭和55年 5 月                | 東京大学名誉教授                                                                                                |
| 昭和58年10月                 | 日本医真菌学会賞受賞                                                                                              |
| 平成 3 年10月                | 日本医真菌学会名誉会員                                                                                             |
| 平成 5 年11月                | 叙勲三等旭日中綬章                                                                                               |
| 平成17年 8 月12日             | 逝去 (享年85歳)                                                                                              |